

石川金次会長について



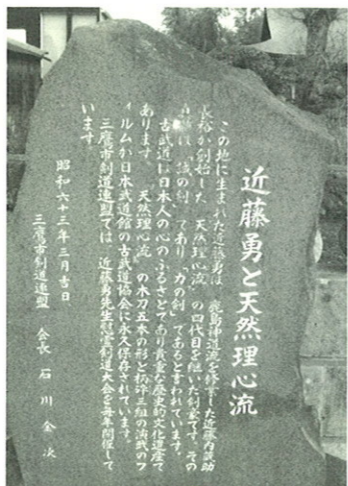
平成6年10月(69歳)

石川裕治 (三鷹武道館)

故石川金次元会長は大正十三年(一九二四年)七月十五日、三鷹市下連雀で石川家の長男として生まれました。生粋の三鷹っ子であり、また抜群の俊足で活躍しました。そして、青年の頃より剣道を愛好しておりました。日本大学で法学を学び、在学中に徴兵されましたが無事帰還して再び法学の道を志しました。

昭和四十三年(一九六八年)三鷹市消防団々長、八幡大神社崇敬会々長、三鷹市立第六小学校PTA会長、第十一町会々長等の役職を勤め、地域の発展のために尽力しました。

録し、その保存会々長に就任した後、近藤勇の菩提寺である龍源寺(三鷹市大沢)の門前に「近藤勇と天然理心流」と題した記念碑を奉納しました。



龍源寺に奉納した記念碑

石川会長と加藤先生は三鷹市住民や剣道愛好者、特に地域の子供たちに充実した錬成を実践しました。そして、剣道を通して切磋琢磨し、親睦を深め結束を強めて、先生方や周りの方々とともに協力して、発展し躍進を遂げました。

「日本古来の伝統に根ざす武道の精神を学び、日常生活に生かすよう、心掛け、練成すれば、わが国の将来を担う立派な青少年になると信じて、三鷹武道館を創設しました。

当時、石川会長は地域の活動の中で、社会の遊惰退廃の風潮を憂い、今こそ質実剛健な気風を必要とする時期であると痛感しておりました。そして、日本古来の武道、剣道こそ最も適切と考え開館を決意しました。時に、三鷹警察の移転が決まり、それに伴い、警察の道場の移転問題が起こりました。当時、それに関係していた加藤伊助先生のご尽力と、義弟の滝澤朗氏の協力を得て、とくに会長の私財を投げ出しての情熱が、多くの障害を乗り越え、三鷹武道館が誕生しました。

昭和四十五年(一九七〇年)四月二十六日、初代筆頭師範に加藤先生を迎え、東京都道場連盟会長、故鈴木平三郎三鷹市長、三鷹警察署々長、三鷹消防署々長、三鷹市剣道連盟会長、市議会議員、その他大勢の著名人を迎え、華々しく、道場開きが行われました。

道場入口の右に梅の木、その隣に竹、左には桜の大きな木があります。この桜は武道を表し、梅は学問を表します。竹は真直ぐにすくすくと育つように、武道同様に学問を学ぶという「文武両道」の考えから子供たちの成

特に、青少年の諸君には、武道の真髄である静かな内にも、気力、体力が溢れる強く逞しい剣士になって頂きたいと思えます。それには、青少年の剣士と教士と父母会が一致協力して指導し励まし、道場の額に百錬自得とあるように錬成の積み重ねによって向上し、大成するものであるから、不断の稽古努力こそ大切なので、倦まず休まず一心不乱に精進して頂きたいと思えます。」

(昭和四十七年三鷹武道館会報より)
この手記から伝わるように、剣道の普及と健全なる青少年の育成のために、情熱を燃やして勇往萬進しました。

晩年は不幸にも病におかされ、十年余の闘病生活を経て、平成十八年七月十五日、八十二歳で他界いたしました。最期まで剣道を愛し、その一層の向上に役立てることを念願しておりました。

父の生前に、ご協力とご理解そしてご支援を賜りました先生方や関係者、そして母会の皆様のご厚情に対し、亡き父に代わりまして心より感謝申し上げます。

長への願いを込めて道場創設のときに石川会長が植えたものです。



昭和45年三鷹武道館道場開き
上段 左端 石川金次会長

昭和四十八年三鷹市剣道連盟会長に就任。剣道連盟会則の改定、一級審査に伴う審査料問題の検討、福島県矢吹町剣道連盟との交流等に尽力しました。また、日本古武道協会に天然理心流を登

